

図書館員による情報リテラシー教育支援：医学部分館の取り組み

Librarians with Information Literacy Education: A care of Nagoya University Medical Library

附属図書館医学部分館
Nagoya University Medical Library

安井裕美子
YASUI, Yumiko

Abstract

Librarians of Nagoya University Medical Library have supported information literacy education of the Medical School since 1985. The course name is "Basic training: Document retrieval". In this paper the course in 2003 is examined.

There were 181 applicants, 120 students of them finished this course at 2003. The course consisted of a lecture and practice of online databases and both of them were being well received by its enrollments. Librarians find some tendency of student's tastes for databases that most of them favored PubMed. Along with the increase in the number of enrollments, librarians took on the burden of the work. However, the merit for librarians of re-learning the function of a database through the course is also large.

Moreover, since search of the precedence research for medical research is an important act, librarians want to keep effort for more support for students of the course.

1. 沿革

名古屋大学大学院医学系研究科では、1985年度より文献検索技能の習得を目的とした科目が設置されている。科目名は数回変更されているが、現在の名称は「大学院「基盤医科学実習」：文献検索」(以下、本実習と称す)である。単位として認定されるのは0.5単位分である。本実習の責任者は附属図書館医学部分館長であるが、文献検索は図書館員の本分であることから、発足時より例年、協力者として貢献し続けてきた¹⁾。

本稿では、医学部分館における取り組みを紹介するために、2003年6月下旬に実施された実習の様子を報告する。

2. 2003年度の実施状況

2.1 受講者

予定された受講者数100名に対し181名の受講希望があり、全員の履修登録を認めた。実習及びレポート評価により、最終的に分館長が単位を認定した受講者は120名であった。

2.2 「基盤医科学実習」：文献検索の概要

医学研究や臨床においては、先行研究や過去の症例を網羅的に調査することが必要である。そのためには、医学系のデータベースを用いて文献を検索し、必要な文献を入手することになる。本実習の目的は、そのような調査に必要な技法、つま

り、情報要求に適合する一次資料を入手する為の手段としての二次資料データベースの検索技法や、一次資料へのアクセス技法を習得することである。

このような目的のためには、講義と検索実習を同時に実施する方法が望ましい。しかし受講者が多数の場合はコマ数が増加し、実習担当者の負担が過大となる。特に2003年度は過去最多の181名を記録したことから、講義と検索実習を別々に実施する方式を余儀なくされた²⁾。

なお、本実習の手順は表1のとおりである。

表1 本実習の手順

テキストの作成	講義	検索実習
レポートによる成績評価	単位認定	

2.3 講義

6月24日の午後に、履修登録者全員を対象に実施した。講義は4名の職員が担当した。

講義の対象は、医中誌 WEB、MEDLINE、EBMR、PubMed、ISI Journal Citation Reports、ISI Web of Science といった、医学研究や臨床に有用とされるデータベースである。

まず名古屋大学で入手可能な資料へのアクセス方法（名大 OPAC、電子ジャーナルなど）について紹介した。その後、テキストに従って前述したデータベースの解説と検索手法の説明を行い、実例を用いてデータベース検索を実演した。

なお、名大 OPAC と PubMed 以外のデータベースは、大学内においてのみ利用可能である。

2.4 検索実習

6月25-27、30日の午後に、計4コマ開講し、各人はそのうちの1回を出席することとした。検索実習は、LAN に接続された PC が設置されている情報メディア教育センターのサテライトラボ（鶴舞キャンパス、収容人員52名）で実施した³⁾。

前年度までは図書館内の PC を使用して実習を実施していたが、PC の台数が少ないこと、図書館内であることから種々の不便が伴うものであった。2003年度はサテライトラボを使用することにより、一度に多人数が受講できる等、より効率的

な実習が可能となった。

また、受講者には各自「検索テーマ」を日本語と英語で用意しておくよう予め通知しておいた。日本語は医中誌 WEB で使用し、英語は MEDLINE、EBMR、PubMed の検索実習で使用した。

6月24日に引き続いて講義を行った後に、各自「検索テーマ」に従って検索をしてもらい、常時4名の職員が個別に助言を行った。

なお医中誌 WEB については、サテライトラボはアクセス許可の範囲外であるため、デモ版（検索対象データが2002年のみであるが、検索機能の制限はない）を使用した。

検索実習の様子から、全くの初心者から、既に使いこなしている受講者まで、様々であることが確認された。

3. 本実習の評価

実習終了後にアンケートの記入をお願いしたところ、受講者全員の協力が得られた（質問項目は【付録】を参照）。

回答者の内訳は表2の通りである。単位取得者が120名であるのに対し、回答者は1名多い121名であった。これは、全過程を受講したがレポートを提出せず、単位を取得できなかったが、アンケートは提出した受講者がいたためである。回答者の記述による内訳と単位取得者の内訳が若干異なるが、回答者の記入間違いによるものと思われる。

「質問1 各データベースをどれくらい利用したことがありますか」については、図1の結果が得られた。PubMed が相当に利用されていることがわかる。それに比して EBMR、Web of Science、

表2 回答者と単位取得者の内訳（人数）

課程	年次	回答者	単位取得者
修士	1	21	19
	2	2	1
	小計	23	20
博士	1	71	71
	2	22	23
	3	5	6
	小計	98	100
合計		121	120

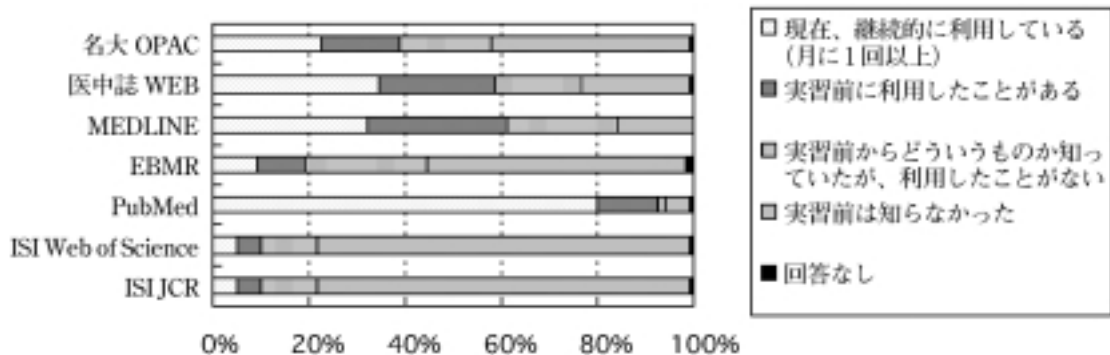


図1 「質問1 各データベースをどれくらい利用したことがありますか」(n=121)

Journal Citation Reports は知名度が低いですが、いずれも重要なデータベースであることから、今後も広報に努める必要があるといえる。

「質問2 講義の内容は充分でしたか」「質問3 検索実習の内容は充分でしたか」「質問4 実習を受けて、データベースをさらに利用しようと思いましたが」という質問に関しては、いずれも高い満足度が得られ、概して好評であったといえる(表3)。

いずれのデータベースも実習以前には使用したことがない、と回答した受講者が4名見られたが、実習後には全員が「もっと利用しようと思った」と回答している。

また、MEDLINE、EBMR、PubMedのいずれも継続的に使用していない受講者が19名見られた。「MEDLINEはわかりにくいいためPubMedで充分」と回答した1件を除いて、「もっと利用しようと思った」と回答している。実習の効果といえよう。

表4は、実習に対する不満足の理由である。最も多い「難しい・理解できない」といった習得の困難さを訴えるものは、EBMR、MEDLINE(特にMeSH)に多く見られた。また、「自分の研究に必要ではない」という意見は、EBMR(臨床ではないので必要ではない)、MEDLINE(大学外でも利用でき、検索手法も容易であることからPubMedの方が使い易い)、医中誌WEB(欧文誌からの検索の方が重要である)に多く見られた。

なお「その他」の主な内容は「自宅で使用できない」「既に使用しており、受講する必要のないデータベースだった」「医中誌WEBがデモ版しか使用できなかった」等である。

表5は、「実習の感想や、医学部図書館への要

表3 実習に対する満足度(n=121, %)

項目	講義の内容は充分	検索実習の内容は充分	さらに利用したい
名大OPAC	98.3	95.9	94.1
電子ジャーナル	95.9	93.4	94.1
医中誌WEB	96.7	93.4	87.3
MEDLINE	94.2	90.9	90.2
EBMR	90.9	84.3	84.3
PubMed	96.7	93.4	95.1

表4 実習に対する不満足の理由(n=109, 複数回答)

理由	講義が不十分	検索実習が不十分	さらに利用しようとは思わない	合計(回答数)
難しい・理解できない	17	19	11	47
自分の研究に必要ではない	0	9	22	31
その他	8	5	13	26
もっと詳しく知りたかった	3	1	4	8
合計(回答数)	28	34	50	112

表5 実習の感想・医学部分館への要望(n=48, 複数, 自由回答)

内容	回答数
実習は有益であった	22
実習に対する要望	20
図書館に対する要望	9
その他	2
合計	53

望がありましたらご記入ください」という自由回答の内容を分類して集計したものである。実習が有益であったとの感想には、「今まで使用したことのないデータベースを使用しなくなった」とい

ったものだけではなく、「日常的に使用しているデータベースでも知らないことがあり、実習で理解することができた」等の評価が含まれていた。

また、実習に対する要望は「講義と実習を同時に実施した方がわかりやすい」「講義の際、後方の席からはスクリーンが見えにくかった」「受講しやすいよう、コマ数を増やして欲しい」「既に理解しているデータベースについては受講の必要がない」等である。様々なレベルの受講者に対応して、受講した価値があったと思われるように工夫をしたいところである。

なお、実習時間の短縮に関する要望もあったが、単位取得に必要な講義・実習時間は大学設置基準により規定されており、短縮することはできない。

図書館に対する要望は、主に図書館の設備に関する要望であった。しかし学内 ILL 等、既に実施されている事項も要望として提示されていたことから、図書館サービスについてさらに広報する必要があると考えられる。

検索実習終了後にレポートを課した。内容は、検索テーマを設定して、データベース検索をさせるものであった。データベースをひとつ選択するよう求めたが、複数のデータベースを使用した受

講者が見られた。図2はそれをまとめたものである。過半数が PubMed を使用しているが、基礎知識がなくてもとりあえず検索可能である点や、大学外でも使用できるといった使い勝手の良さが評価された結果といえよう。

4. まとめ

1985年の発足時には8名であった受講希望者は増加し続けており、2003年度には181名に達した(図3)⁴⁾。過去には、受講予定者数を上回った場合には受講者を選抜した年度もあるようだが、より多くの受講者が文献検索の技能を習得できるよう、近年は希望者すべてに受講を認めている。しかし受講者の増加に伴い、各受講者のレベルに合わせた密な対応が困難になるなどの弊害が生じている。また、有用なデータベースの増加により、実習内容が複雑化しつつある。これらの事情を踏まえて、今後の実習を計画する必要があるだろう。本実習がどのような経緯で発足したのか興味をもち、発足時に在職されていた島岡眞氏(現：附属図書館情報管理課資料管理掛長)にお尋ねしたところ、興味深いお話しを伺うことができた。概要は以下のとおりである。

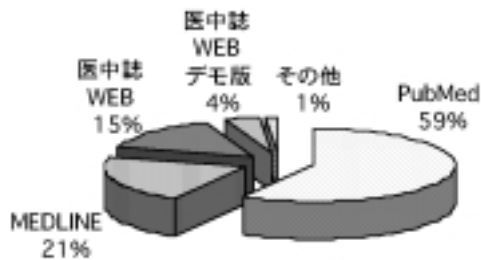


図2 レポート作成に使用されたデータベース (n=120, 回答数=151)

きかけは、今でははっきり記憶していないが、日頃から私大医学図書館に対する自分らの力量不足を痛感していたことと言えるかもしれない。内容は、JISCT(現在はJST:独立行政法人科学技術振興機構)が提供していたオンラインのMEDLINEが中心であった。今のようにインターネットではなく、利用時間や出力件数に応じて料金を支払う従量制であった。それまでも利用案内として文献検索

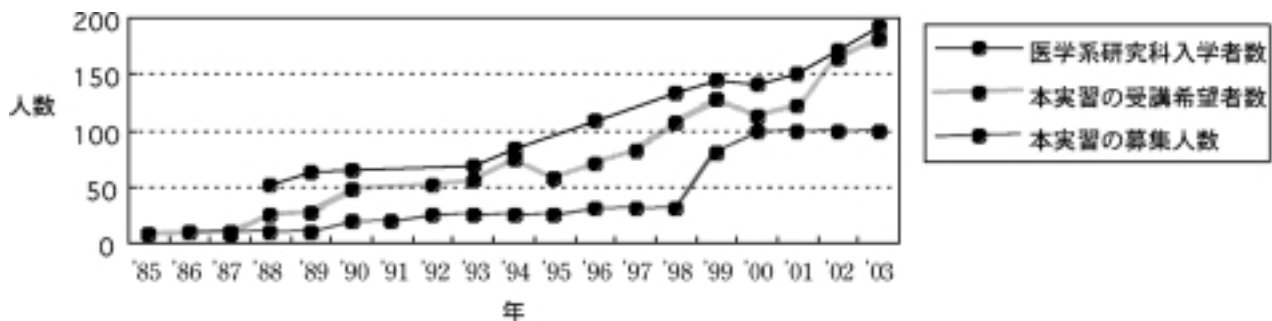


図3 本実習の受講希望者等の推移

指導を実施していたが、図書館員がいかに使
用するか、といったことから、むしろ研究者
(大学院生)の利用を促進したいということで、
当時の担当であった幾代専門員が分館長に相
談して、実現したように記憶している。テキ
ストの作成に苦勞し、初年度は8名の受講者
を前に緊張したが、熱心な受講者ばかりで、
得るものも多かった。

その様子を探るべく、当時のテキストを開いて
みた。MEDLINE のほかに、INDEX MEDICUS や
医学中央雑誌といった冊子体のツールが丁寧
に解説されており、充実した内容であった。現
在は有用な医学系のオンラインデータベースが
複数存在していることから広く浅くなり勝ち
で、まとまりのなさが気になっていることか
ら、先人の手法を参考にしたいところである。

図書館員が講義に協力する形で情報リテラシー
教育を支援する事例は、既に複数報告されて
いる⁵⁾。それは、図書館員の持つ教育・研究支援
能力の顕在といえよう。

日常業務を遂行しつつ実習に関与することは業
務上の負担も大きく、また図書館員が教育に関
わることについては批判もあるだろうが、日常
的に医学系のデータベースを使用し、熟練した
図書館員が情報リテラシー教育を支援すること
には多大な意義がある。実習の準備、特にテキ
ストの作成を通して図書館員は、データベース
に関する体系的な学習を新たにすることができる。
また、講義および検索実習を通して図書館員は、
研究科および利用者への理解、教員との連携
を深めることができるのである。

一方で、受講者の各データベースに関する習
熟度が様々であることから、講義・検索実習
が漠然としたものになり勝ちであった。具体
的な到達目標を挙げる等、対策と工夫が必要
であろう。特に「難しい」との感想が多か
ったEBMRに関しては、医療関係者のみならず、
医学に関係する受講者には是非、その意義
を理解してもらえよう工夫したいところであ
る。

初年度から現在までに、文献検索における情報

源としてのデータベースは、冊子体から CD-
ROM、コンピュータ・ネットワーク型へと様々
な形態が登場し、検索の技法も変化した。し
かし、医学研究や臨床への応用を目的とした
文献検索の重要性に変わりはない。当館の職
員としては、今後も日々のサービス向上に努
めるとともに、より充実した実習の支援を
目指したい。

【謝辞】

実習への協力および本稿の作成にあたって、
本実習の責任者である医学部分館長、山内一
信教授にお世話になった。ここに感謝の意
を表したい。

また、発足時の様子についてお聞かせくだ
さった島岡眞氏に深くお礼申し上げる。

【注】

- 1) 2003年度の協力者は次の6名である。
平井芳美・鈴木康生・石田康博・安井裕美子・山川幸
恵・平田沙矢香
- 2) 過去には、実習と検索実習を織り交ぜて実施した年度
もあった。
- 3) 鶴舞キャンパスのサテライトラボは2003年度に開設さ
れた。
- 4) 以下の年度に関しては、数値が不明のため補完してプ
ロットした。入学者数等がなぜ不明かと思われるであ
ろうが、改修工事に伴い学務関係の資料が利用できず、
調査不能であった。同様に、単位取得者については不
明の年度が多かったことから割愛した。
・医学系研究科入学者数： '85 - '87, '91 - '92, '95, '97
・受講希望者数： '86, '91
・本実習の募集人数： '85
- 5) 最近では、「医学図書館・2003, vol.50, no.2」に複数の
事例が報告されている。
また、事例を通して教育・研究における大学図書館の
役割や可能性について言及した以下の文献は興味深い。
青山 弘, 大学図書館研究。「授業と連携した」図書
館ガイダンスの可能性：岐阜大学の事例を中心に。
2002, no.65, p.58-66。
さらに高次の教育・研究支援に取り組んだのが以下の
事例である。
金丸明彦, 下田研一, 長澤多代. 長崎大学における
ファカルティ・ディベロップメント・プログラム：そ
の概要ならびに大学教育機能開発センターと附属図書
館が協同した「情報検索の方法」ワークショップ。大
学図書館研究・2003, no.69, p.1-14。

【付録】アンケート項目

<p>質問1 各データベースをどれくらい利用したことがありますか データベース名：名大 OPAC , 医中誌 WEB , MEDLINE , EBMR , PubMed , ISI Web of Science , ISI Journal Citation Reports 選択肢： ・ほぼ毎日利用している ・週に1-2日程度，利用している ・月に1-2日程度，利用している (注：以上3点は「継続的に利用している」とみなす) ・実習前に利用したことがある ・実習前からどのようなものか知っていたが，利用したことがない ・実習前は知らなかった</p> <p>質問2 講義の内容は充分でしたか データベース名：名大 OPAC , 電子ジャーナル , 医中誌 WEB , MEDLINE , EBMR , PubMed , ISI Journal Citation Reports 選択肢：充分・不十分</p>	<p>質問3 検索実習の内容は充分でしたか データベース名：名大 OPAC , 電子ジャーナル , 医中誌 WEB , MEDLINE , EBMR , PubMed 選択肢：充分・不十分</p> <p>質問4 実習を受けて，データベースをさらに利用しようと思いましたか データベース名：名大 OPAC , 電子ジャーナル , 医中誌 WEB , MEDLINE , EBMR , PubMed 選択肢：思う・思わない</p> <p>質問5 現在の学年をひとつ選択してください 選択肢： M1 , M2 , D1 , D2 , D3 , D4 , その他</p> <p>質問6 実習の感想や，医学部図書館への要望がありましたらご記入ください</p> <p>注：今後の参考のため，質問2-4の回答が「不十分」「思わない」の場合には理由の記載を求めた。</p>
---	--